

とめのちから

登米の力



登米管内における高校生と社会人との対話による

キャリア教育支援事業 「ミライブラリー」を実施しました

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所地方振興部

12月15日（金）に登米総合産業高等学校で高校生と社会人との対話によるキャリア教育支援事業「ミライブラリー」を実施しました。

これは、高校生が地元で働く社会人との対話を通じて、勤労観・職業観を醸成するとともに、若手社会人が、社会人同士や高校生との対話を通じて自社や自身について考えを深め、今後のキャリア形成に役立てることを目的としています。

社会人の方々には「働くことの大変さ」や「自分の人生で大切にしていること」をお話ししていただき、高校生は話に熱心に耳を傾けていました。

今後も学校等と連携しながら、高校生や社会人の地元定着に向けた取組を行ってまいります。



対話の様子

2023 登米の秋 おなかもこころもほっこりフェアを開催しました

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所地方振興部

令和5年10月5日（木）から12月2日（土）まで、「食の魅力」を「観光」に活用する仕組みづくりを目的に、「2023 登米の秋 おなかもこころもほっこりフェア」を昨年度に引き続き、開催しました。このフェアは食材の宝庫である登米市の魅力ある食アイテムを活用し、食で登米地域を元気にしたいという地元飲食店と協働した取組です。

市内4飲食店（精進スイーツ結び、HAIJI、Bistro Vendange、soeru）の料理人が腕を振るい、登米市産食材を余すところなく使い、体にも環境にも優しい料理を提供しました。多くの方に購入していただき、登米市産食材の魅力を知っていただける機会になりました。

また、令和6年1月中旬から、「2024 登米の冬 おなかもこころもほっこりフェア」を開催する予定です。



フェアメニュー

登米市「地域計画」策定に関する「協議の場」が実施されました

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部

登米市では、地域農業の未来設計図となる「地域計画」を、市内9地区で策定することとしています。農業者からの意見を反映した計画とするため、11月14日（火）から12月6日（水）までの期間に、それぞれの地区で1回目の「協議の場」を実施しました。

登米市からは「地域計画」策定の目的や意義、農業委員会からは「地域計画」と併せて作成する「目標地図」について説明があり、その後、協議の場の運営を担う㈱NORTH AIMの宮村氏がファシリテーターとなり、地域計画の策定に向けて農業者によるワークショップが実施されました。

農業振興部では、サブファシリテーターとして、ワークショップの進行や意見の取りまとめを支援しました。

昨年、登米市中田地区は県のモデル事業でワークショップを経験したものの、今回参加の農業者は初めての方がほとんどで、意見のとりまとめなどに工夫が必要な場面もありました。参加者からは、地域の将来に向けて担い手への支援策が必要など、積極的な意見が多く出されました。

登米市では、年度内に2回目の「協議の場」を開催する計画であることから、農業振興部では地域の意見を反映した「地域計画」が策定されるよう引き続き支援してまいります。



「協議の場」の様子

「農業と農村のいろいろなはたらき」学習会を開催しました！

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部

10月25日（水）、登米市立西郷小学校の4・5年生20名を対象に、農地整備工事実施中の「沼崎・大平地区」において、現場学習会を実施しました。この学習会は「農業と農村のいろいろな働きについて学び、自分たちの住んでいる農村の地域資源の大切さについて理解を深めてもらうこと」を目的に開催したものです。

まず当所農業農村整備部職員より、農業や農村の持つ多面的機能や、現在農地整備工事実施中の「沼

崎・大平地区」の概要等について説明を行いました。

次に工事受注者（（株）浅野工務店）指導の下、先進技術を活用したICT建設機械を実際に稼働させ、自動制御による盛土作業などの見学や建設機械・測量器械にも実際に触れて、建設現場での仕事を実際に体験してもらいました。



説明の様子



建設機械体験の様子

特定家畜伝染病の防疫演習について

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所畜産振興部

東部家畜保健衛生所が所管する、登米、気仙沼、石巻の各地域で、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生に備えた防疫演習が令和5年10月から12月にかけて延べ5回開催されました。

実施された内容は各地域によって異なりますが、県合同庁舎内で開催される連絡会議や防疫資材の発注、インシデント対応についてロールプレイング形式で実施する机上演習、防疫措置のサポートを行う支援センターの設置訓練、重

機で埋却溝を掘削しブルーシートの敷設や消毒薬の散布、汚染物品が入った想定フレコンバッグを埋設する埋却演習が行われました。

本県はここ数年で豚熱や高病原性鳥インフルエンザの発生を経験し、多くの県職員が防疫作業に当たってきましたが、なお演習を行うことにより多くの気づきや改善点が描出されることから、今後も継続して防疫演習を実施することが重要と考えています。



資材発注等の机上演習



汚染物品が入った想定フレコンバッグの積み込み

～公式InstagramとTwitter「ほっとめーしょん」

で登米地域の“ほっと”な情報を発信中です～

おすすめの食べ物や景色、施設のほか、季節のおすすめスポットなど、登米地域の様々な魅力情報を職員目線で発信しています。

投稿内容は、「ほっとめーしょん」で検索していただくか、右下のQRコードよりご覧ください！



Instagram



X (旧Twitter)



「登米地域感染症対応強化研修会」を開催しました

宮城県東部保健福祉事務所登米地域事務所（石巻保健所登米支所）

私たちの暮らしに大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から感染症上の位置づけが5類感染症に変更となりました。

これまでコロナ禍で制限されていた社会活動の正常化や人流の活発化に伴い、ここ数年、大きな流行が見られなかった感染症の発生や感染拡大につながることも懸念され、医療機関や高齢者・障害者施設等においては、新型コロナウイルス感染症に限らず、他の感染症への対応も含めて、引き続き状況に応じた適切な感染症対策に取り組んでいく必要があります。

このような状況から、登米管内における感染症対策の強化を図ることを目的として、令和5年12月13日（水）登米地区地域医療対策委員会と当所の共催により、「登米地域感染症対応強化研修会」を開催しました。

まずはじめに、公益財団法人宮城県結核予防会の齋藤彰主任から、「感染症対策における換気のポイント～“効果のある換気”とは？～」と題して、換気の基礎知識や換気を実施する際のポイントについて、換気調査の事例などを交えながら、具体的なわかりやすいお話をいただきました。

続いて、東北医科薬科大学医学部の吉田真紀子准教授から、「医療機関、高齢・障害福祉施設における感染症対策の基本と実践～感染症対策の振り返りと今後の取り組みに向けて～」をテーマにした講話と演習を通じた助言をいただきました。

演習は、参加者全員によるPPE^(※)着脱演習と吐物処理演習の二部構成で行いました。

参加者からは、「今まで空気の入り方を気にしたことがなかったが、ただ窓を開けるだけでなく、空気がどれぐらい出ているのか、そして入っているのを見なければならぬと思いました。また、換気扇の清掃についてももしっかり確認したいと思いました。」「ガウンテクニック、嘔吐後処理など曖昧な部分があったため、振り返りの機会になりました。」「などの感想がありました。

限られた時間での研修でしたが、今回の学びや気づきを現場での実践や取組みにつなげていきましょう。

(※) PPE：ガウン、手袋、マスク等の個人防護具



参加者全員によるPPE^(※)着脱演習の様子

〈石巻保健所登米支所からのお知らせ〉

インフルエンザ警報発令中です！！

- 外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前等は、石けんと流水で手を洗いましょう。
インフルエンザウイルスにはアルコール製剤による手指衛生も効果があります。
- 乾燥しやすい室内では、加湿器などを使用し、適切な湿度（50～60％）を保ちましょう。
- 体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスの取れた栄養摂取を心がけましょう。
- 季節を問わず、また、新型コロナウイルス感染症対策としても十分な換気を行きましょう。
- 流行期には、人混みや繁華街への外出を控えましょう。



※外出して人混みに入る可能性がある場合、飛沫感染等を防ぐことができる不織布製マスクの着用は防
御策の一つです。（飛沫感染等を完全に防ぐものではありません）

ふしよくふせい

「河川クリーンキャンペーン」を開催しました！

宮城県東部土木事務所登米地域事務所

当事務所では、河川への不法投棄の防止と河川愛護を推進するため、一般社団法人宮城県建設業協会登米支部と協働で、迫川流域の一斉清掃活動「河川クリーンキャンペーン」を毎年実施しており、今年で45回目となります。

11月15日（水）に、建設業18社・1団体の105人と当事務所職員10人が参加して、登米市内の迫川と旧迫川の清掃作業を行いました。

当事務所では60kgのごみを回収しました。全体では820kgもの一般ゴミのほか、廃タイヤ・廃家電などを回収し処分しました。



開始式の様子



事務所職員が回収したゴミの状況

第2回迫川流域治水研修会を開催しました！

宮城県東部土木事務所登米地域事務所

令和5年度第2回目となる「迫川流域治水研修会」を10月12日（木）に栗原市の荒砥沢ダム周辺を会場として開催しました。

今回の研修会では、「荒砥沢ダムの現状と防災教育」をテーマとして、平成20年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」によって被災した二迫川上流にある荒砥沢ダムの災害復旧や日本ジオパークとして認定されている「荒砥沢大規模崩落地」について、栗駒山麓ジオパークのガイドから現地での説明を受け、自然の驚異を実感したところです。

今後も流域内の各関係機関との相互連携の充実・強化を図りながら、防災・減災への更なる知識向上に取り組み、迫川流域の治水対策等を推進してまいります。



研修会の様子（荒砥沢大規模崩落地の視察）

